



▲たくさんの水道水をつくるので、大型コンピューターで作業しています



▲薬品を入れてゆっくりと水をかき混ぜ、水の濁りなどを取っていきます

川の水は、そのままではばい菌や濁りがあって飲むことはできません。そのため、白川浄水場では川から取り入れた水をきれいにして、安全に飲むことのできる水道水をつくる仕事をしています。

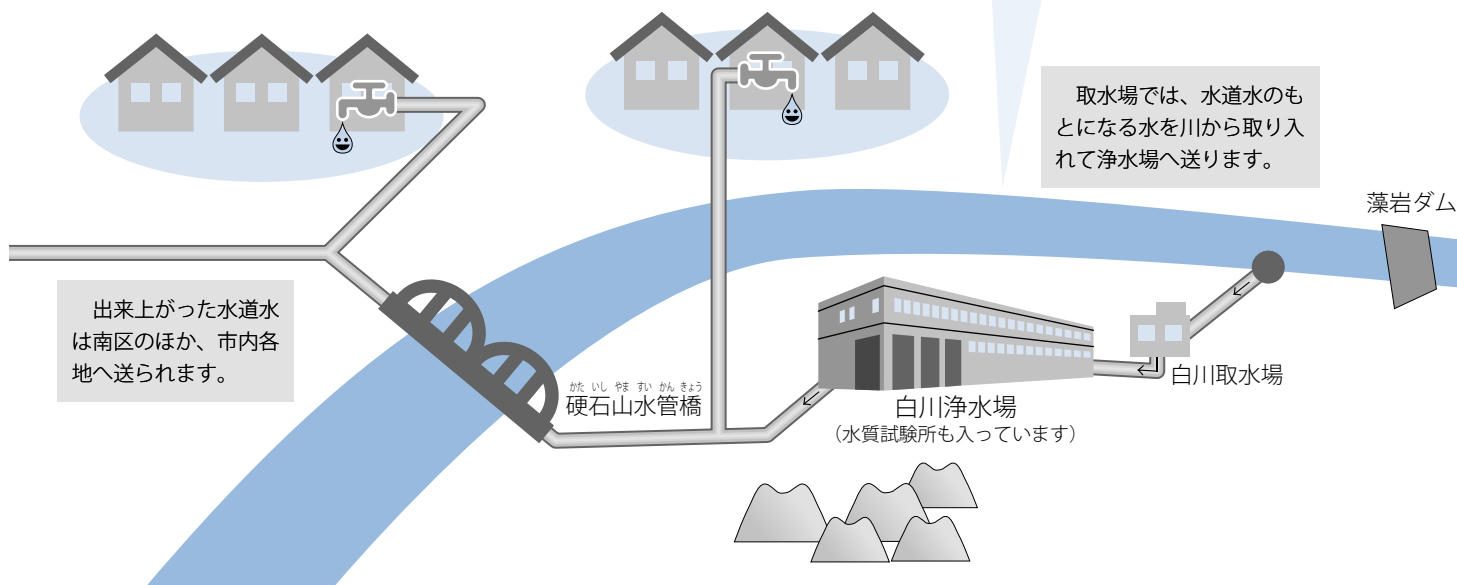
白川浄水場は、25メートルのプール約1,900杯分の水道水（約47万立方メートル）を1日につくっています。これは札幌市内の浄水場全体でつくっている水道水の約80%にあたります。

濁りなどを取った後、塩素という消毒のための薬品を入れますが、入れ過ぎると水道水の味が落ちるので、入れ過ぎないように気を付けています。これがおいしい水の秘訣です。

雨が降って川の水の濁り方がひどい時は、濁りやにおいを取るために入れる薬品の量を調節したりして、いつもと同じきれいな水道水をつくるのに苦労します。

おいしい水にするために頑張っていますので、安心して水を飲んでください。

白川浄水場  
佐々木拓実さん

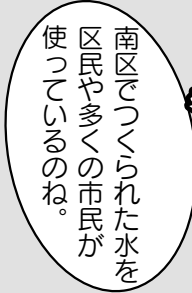


皆さんの家庭に届く水道水は、南区の山や森からわき出た水をもとにして、区内にある浄水場できれいにして出来上がっています。水ができる道のりを見ると、南区がおいしい水のふるさとと言えるのではないのでしょうか。

おいしい水道水を飲み続けるためにも、自然を大切に、水のみなもととなる川をきれいにしていきたいですね。



南区でおいしい水が  
できていることが  
わかったぞ！



南区でつくられた水を  
区民や多くの市民が  
使っているのね。

この特集についての問い合わせ先  
水道局施設管理課 ☎211-7065

